

民生環境水道常任委員会行政視察報告書

末 吉 利 啓

○愛知県刈谷市

高齢者支援の取組について

【所 見】

前提として、刈谷市は周辺の豊田市、豊川市などと同様に出生率が高く、高齢化率が低い、国内では少子高齢化が比較的遅れている地域である。しかし、20年で高齢化率が7%上昇し、それに合わせ介護認定者も増加することが予想されていることから、早期に対応を検討している。

まずは「高齢者向けの配食サービスの取り組み」について記しておく。同サービスは配食サービスを通じて、見守りが必要な高齢者の食の自立を支援し、安否確認を行い、福祉の増進を目指している。自宅に食事を届ける「一般食」と、病気療養などで食事に配慮が必要な方に、主治医の指示で食事を届ける「調整食」の2種類が用意されていることが特徴だ。利用者の推移は一般食が増加傾向なのに対し、調整食が横ばいだそうなので、そのあたりの分析も必要だと感じた。

本市では民間企業による見守りが必要な高齢者世帯への乳酸菌飲料を配布する「愛のひと声事業」と、地区社会福祉協議会のお弁当配達事業がある。共にある種の善意に依存している側面があり、持続可能性については課題もあると感じている。逆に刈谷市のように弁当代の半額と配達料を市が負担することも、人口減、税収減の中では容易なことではない。この辺りは費用対効果を検証することが必要だと思われるが、乳酸菌飲料ではなく弁当である点、配達の頻度が多い点でどのような見守り効果があるのか、深掘りして調査したいところだ。

次に「高齢者交流プラザ」について。同施設は高齢者の健康増進や生きがいづくりなどの福祉増進を目指して整備された施設だ。運動やフラダンスなどの各種講座の運営、世代間交流や敬老系のイベント運営を実施している。利用者は年間約58,000人で、運営は刈谷市社会福祉協議会が受託している。

本市には同様の施設に3カ所の「幸楽荘」あり、人口に比して施設数は多い。使用料は刈谷市が無料に対し、本市は高齢者が100円となっている。財政力の違いもあるが、無料の乱発は慎重に考えるべきだ。人口

規模がほぼ同等の刈谷市「高齢者交流プラザ」の年間利用者が約 58,000 人に対し、本市「幸楽荘」は 3 カ所合わせて約 80,000 人（令和 4 年度）であることから、多少の使用料を設定してもある程度の利用者は確保できると推察できる。いずれにしても、本市の高齢者福祉施設の在り方について再考する機会になった。多様かつ喜ばれるサービスを提供し、利用者を幅広く増やし、持続可能な経営形態を模索していきたい。

○愛知県豊田市

衛星画像と A I を活用した漏水対策について

【所見】

全国的に問題となっている水道管の老朽化による漏水。この課題解決に向け衛星画像を活用した A I による調査において、先駆的な自治体である豊田市を視察した。

豊田市は令和 2 年と令和 4 年の 2 段階で別の事業者による調査を実施している。令和 2 年はイスラエルの事業者による調査で、水の性質を衛生で分析する。従来であれば年間 80km 程度の調査しかできないものが、2,210km の調査を可能にし、発見した漏水箇所も従来の 69 件から 259 件と大幅に改善がなされ、高い効果をあげている。

令和 4 年は（株）天地人、フジ地中情報（株）という国内企業による実証事業で、こちらは土壌環境や道路環境から分析をする。こちらも 3,663km を調査し、77 件の漏水箇所を発見している。

共に高い効果を発揮しているものの、分析手法の視点が違うためその長短を判断するのに時間が必要とのことだった。また、令和 2 年はパイロット価格である点、令和 4 年が実証実験である点が、今後の安定的に事業展開する上で、予算上の不確定要素となる。更に、同分析技術の成果や課題がまだまだ研究途上であり、自治体がどのように実際の業務に落とし込んで持続可能な形にしていくかなど、まだまだ研究・分析が必要と感じた。

翻って本市では、有収率が 71.4%（令和 4 年）と全国平均の 90%を大きく下回る危機的状況である。そこで令和 5 年度より「A I を活用した漏水リスク調査事業」を開始することとなった。本市の場合、道路環境、管の老朽化、土壌環境などのデータから破損確率を分析する。坂西水系をモデル地区として調査し、その効果を見定める。

先ほどの豊田市のように、海外企業技術の先駆的な導入や、国内企業の実証実験など、いわば業界の最先端から得られる情報は貴重だ。今回は常任委員会の視察のため、本市担当課長に同行いただき、先方担当者との交流を深めることができた。様々な自治体や関係者から多くの問合せもあると思うが、本市もこれを機に積極的に豊田市から情報をいただけるような関係構築を期待したい。